

# ハイスピードプーリーキット 取扱説明書

製品番号 02-01-7025

適応車種 マジェスティ S (SG28J)

この度は、弊社製品をお買い上げ頂きまして有り難うございます。  
 使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願い致します。取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。  
 万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

◎イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

## ☆ご使用前に必ずお読み下さい☆

- ◎取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、弊社は賠償の責を一切負いかねます。
- ◎当製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。
- ◎当製品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。
- ◎他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。
- ◎当製品は、上記適応車種の車両専用部品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意ください。
- ◎当製品は、駆動系の分解作業が必要となり、特殊工具を使用する箇所もあります。上記車種に応じた純正サービスマニュアルを別途ご用意下さい。
- ◎取り付けには上記適応車種にあった純正サービスマニュアルを必ず参照し、確実に作業を行って頂く事になりますが、サービスマニュアルは基本的な技術や知識を持っている方を対象としていますので、技術や知識をお持ちでない方が作業を行った場合は、正しく組み付け出来ない場合や、部品を破損させる可能性がありますので、十分ご注意ください。
- 取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は技術的信用のある専門店へご依頼される事をお勧め致します。
- ◎当製品には純正部品を使用する箇所があります。磨耗、破損があれば新品を用意して下さい。
- ◎取り付け前にはドライブベルトを確認して下さい。(磨耗状態により本来の性能を発揮出来ない場合があります。)
- ◎使用用途や運転者の体重等により、付属のウエイトローラー重量が適さず、リセッティングが必要な場合があります。ウエイトローラーサイズはφ 20mm x 12mm です。
- ◎当製品のご使用の際には、駆動系部品全ての走行距離 1000km 毎の定期的な点検を行う事をお勧め致します。  
 なお、ウエイトローラーやスライドピースは定期的に交換が必要な消耗部品となります。
- ◎不明な点がございましたらお買い求め販売店にお問い合わせ下さい。

## ～特徴～

- マジェスティ S のノーマル車両や、弊社マフラー取り付け時に有効なウエイトローラー (10g x 6pcs) を付属したキットです。
- 当製品を取り付ける事により、安定したパワーが持続し、最高速 UP が可能です。

**注意** この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害が想定される内容を示しています。

- 一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。  
 (法定速度を超える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- 作業等を行う際は、必ず冷間時 (エンジン及びマフラーが冷えている時) に行ってください。(火傷の原因となります。)
- 作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- 規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- 製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- 走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みがないかを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。  
 (部品の脱落の原因となります。)

**警告** この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- 走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- 作業を行う際は、水平な場所で車両を安定させ安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- 点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。  
 (不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- 点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。(事故につながる恐れがあります。)
- 製品梱包のビニール袋は、幼児の手の届かない所に保管するか、廃棄処分して下さい。(幼児がかぶったりすると、窒息の恐れがあります。)

- ◎性能アップ、デザイン変更、コストアップ等で製品および価格は予告無く変更されます。予めご了承下さい。
- ◎クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた製品に対してのみ、お買い上げ後 1ヶ月以内を限度として、修理又は交換させて頂きます。  
 但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。  
 なお、レース等でご使用の場合はいかなる場合もクレームは一切お受け致しません。予めご了承下さい。
- ◎この取扱説明書は、当製品を破棄されるまで保管下さいませお願い致します。

## 製品内容



番号	部品名	個数	リペア品番
1	プーリー	1	
2	ランププレート	1	
3	スライドピース	3	00-02-0418 (3ヶ入り)
4	ウエイトローラー (10g)	6	02-00-2100 (6ヶ入り)

※リペアパーツは必ずリペア品番にてご発注下さい。  
 品番発注でない場合、受注出来ない場合もあります。  
 予めご了承下さい。  
 尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品番にてご注文下さいませお願い致します。

株式会社 スペシャルパーツ 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東 3-5-16  
 TEL:0721-25-1357 FAX:0721-24-5059 URL <http://www.takegawa.co.jp>

■取り付け要領 ※特に記載の無い細部の取り付け方法や規定トルクにつきましては、純正サービスマニュアルを参照して下さい。

※作業の際は必ず水平な場所でメインスタンドを使用し、確実に車両を安定させながら行う事。必ずエンジンを停止し作業を行う事。  
 なお、エンジン停止直後のドライブユニットは高温になっているので必ずエンジンが冷えてから作業を行う事。

○純正サービスマニュアルを参照し、エアクリナーボックスカバー / クランクケースアウターカバーを取り外す。



○クランプを緩め、エアダクトの接続を外す。



○エアクリナーボックスの2本のボルトを取り外す。



○ボルト14本を取り外し、L. クランクケースカバー / ガasketを取り外す。ノックピン2個を取り外しておく。



○ユニバーサルホルダにてドライブフェイスを固定し、ドライブフェイスナットとワッシャを取り外し、ドライブフェイス、ランププレート / ドライブフェイスボス / プーリーを取り外す。



○付属の①プーリーに付属の④ウエイトローラー(10g)をセットし、ノーマルのドライブフェイスボスと付属の②ランププレート / ③スライドピースを取り付ける。

※ウエイトローラーやドライブフェイスボス摺動部にグリス等を塗布せずに組み付ける事。



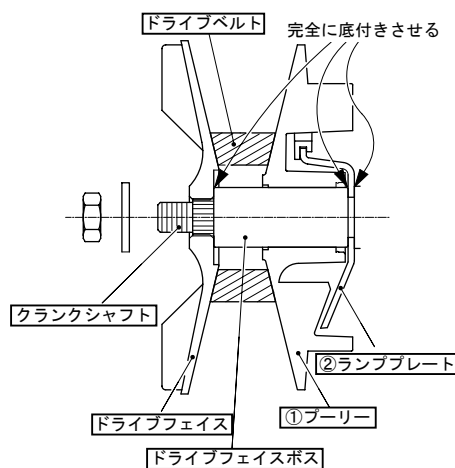
○④ウエイトローラー(10g)が脱落しないように②ランププレートを押さえながらクランクシャフトに取り付ける。



○ドライブベルトをドライブフェイスボスに通す。  
 ※ドライブフェイスを手で広げ、ドライブベルトを引き出しておいてからドライブフェイスボスに通す。



○ドライブフェイスをクランクシャフトのスプライン形状に合わせて取り付ける。  
 ※この時、ドライブフェイスをドライブフェイスボス側に押し当て、完全に底付きさせる。  
 ※ドライブベルトやフェイス面に油脂を付着しないように注意。



○ドライブフェイスナットとワッシャの座面に推奨グリスをごく少量塗布してから取り付け、ユニバーサルホルダにてドライブフェイスを固定しながら規定トルクにて締め付ける。  
 推奨グリス：ヤマハグリス B

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
 トルク：45N・m (4.5kgf・m)



○ドライブフェイスを数回転手で回し、ドライブベルトをなじませる。

○L. クランクケースカバー / ガasketをノックピン2個と共に取り付ける。  
 ボルト14本を取り付け、対角に数回に分けて規定トルクにて締め付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
 ボルト  
 トルク：10N・m (1.0kgf・m)



○エアクリナーボックスを2本のボルトで取り付ける。

▲注意：必ず規定トルクを守る事。  
 ボルト  
 トルク：10N・m (1.0kgf・m)

○クランクケースアウターカバー / エアクリナーボックスカバーを純正サービスマニュアルを参照し、取り付ける。  
 ○エアダクトを接続し、クランプを締め付ける。  
 ○各部を点検し、ネジやナット等の緩みが無いか確認する。  
 ○風通しが良く、安全な場所で十分注意してエンジンを始動し暖気運転させる。  
 ○エンジンからの異音など、異常が無いか点検する。  
 ○エンジンを切り、充分冷えた後で各部を再度点検する。